

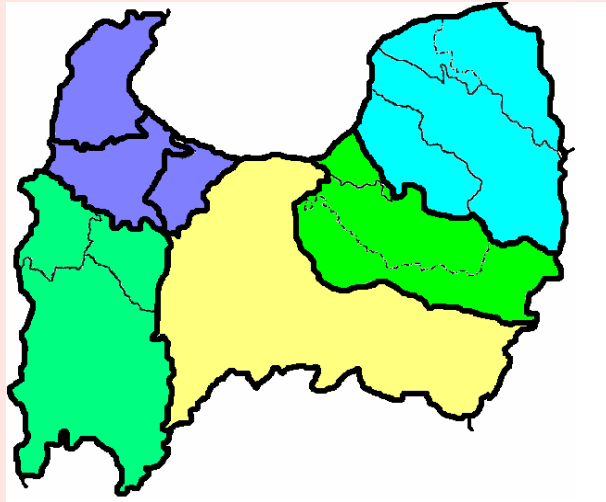
富山県

本人中心の支援にあたり前のこととして
取り組める人材の育成を目指して

富山県では、入院の長期化を防ぎ、また、長期入院者であっても本人中心の支援にあたり前のこととして取り組める人材の育成を目指しています。

1 県の基礎情報

富山県



取組内容

【人材育成の取り組み】

H26年～

地域移行推進研修、改正精神保健福祉法における業務
従事者研修の開催

【精神障害者の地域移行の取り組み】

H19～20 精神障害者地域移行コーディネーター養成事業

H21～22 精神障害者地域移行支援特別対策事業

H23～ 精神障害者地域共生支援事業

- ・高齢長期入院患者退院支援事業（H24～H26）
- ・ピア・フレンズ養成事業（H23～）

H27～ 精神障害者地域サポート強化事業

基本情報

圏域数	4ヶ所
人口	1,065,049人（H27.7.1現在）
精神科病院の数	30病院
精神科病床数	3,203床
入院精神障害者数	3か月未満：487人（16.5%）
	3か月以上1年未満：485人（16.5%）
	1年以上：1,974人（67.0%）
退院率	入院後3か月時点：63.0%
	入院後1年時点：85.9%
相談支援事業所数	一般相談事業所数：27（H28.1.1現在）
	特定相談事業所数：58（H28.1.1現在）
障害福祉サービスの利用状況	地域移行支援サービス：0人（H27.11月分）
	地域定着支援サービス：20人（H27.11月分）
保健所	5カ所
	中核市1カ所、本所4ヶ所（支所4ヶ所）
（自立支援）協議会	（人材育成について議論）：なし
	（精神障害者の地域移行について議論）：精神部会 （活動頻度）：1回/年
精神保健福祉審議会	

※H26年6月30日時点

2 都道府県としての精神障害者の地域移行推進のための人材育成の取り組みの経緯

【平成25年度】

平成26年2月27日開催の改正精神保健福祉法に関する業務従事者研修に参加。今後の研修企画チームの基礎を作る。

(中核市保健所、富山県精神保健福祉士協会、心の健康センター、健康課)

【平成26年度】

- 平成26年度、上記に加え、地域包括支援センター職員も企画チームに加え、県の地域移行人材育成研修を企画。地域の中心となる厚生センター（保健所）職員向けの研修（11月）を開催後、多職種が一同に会し、改正精神保健福祉法における業務従事者研修（3月）を開催。
- 病院看護職員、厚生センターの協力が必要との観点から、日本精神科看護協会富山県支部、厚生センターも研修企画メンバーに加わってもらう。

【平成27年度】

- 病院看護職員等を中心に地域移行推進研修（事前研修）開催：8月
- 多職種での地域移行推進研修（本研修）開催：9月
- 地域移行推進研修（フォローアップ研修）開催予定：2月

3 都道府県としての精神障害者の地域移行の取り組みの経緯

平成19年度

～ 20年度 **精神障害者地域移行コーディネーター養成事業**

- ・ 社会福祉法人や医療法人における精神保健福祉士等を地域移行コーディネーターとして退院支援の専門家を養成

平成21年度～ **精神障害者地域移行支援特別対策事業開始**

- ・ 地域自立支援協議会7圏域ごとに、厚生センター等に地域体制整備 コーディネーター、相談支援事業所に地域移行推進員を配置
- ・ 県精神障害者地域移行支援事業検討会を設置（～現在）

平成23年度 **精神障害者地域共生支援事業開始**

- ・ ピア・フレンズ養成を開始

平成24年度 **高齢長期入院患者退院支援事業開始**

- ・ 精神科病院に委託し、高齢長期入院患者の退院支援を実施（～H26）
- ・ ピア・フレンズ養成を県精神保健福祉士協会に委託し実施（～現在）

平成25年度 **地域体制整備コーディネーターの廃止**

平成27年度 **精神障害者地域サポート強化事業開始**

- ・ 地域相談支援サービス普及促進事業
- ・ 精神科訪問看護師育成支援事業
- ・ ピア・フレンズ派遣事業

3-1 新川圏域の取組①

新川圏域のアセスメント(今の姿)	心意気はあるが・・・
新川圏域の目指すビジョン	患者さんの声、それぞれの心意気を反映できる圏域
今日から半年間の目標	ピア・フレンズを知ろう

＜取組み＞	
<p><アイデア> (ストレングスを活かして！)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自立支援協議会精神部会で検討し具体策を実施する ② ピア養成への働きかけ、ピアの方々に各医療機関や民生委員研修等で力を発揮してもらう 精神疾患患者さんの思いを関係者に理解してもらう ③ ヘルパーの方々に、精神障害者の理解を深めてもらう(高齢者施設を含む) ④ 看護師や作業療法士などに法や制度、地域のサービスを分かりやすく説明してもらえる取組 ⑤ ガイドやパンフレット、DVDを作成・配布する ⑥ 病院職員が事業所を見学し、患者が利用しやすいよう理解を深める ⑦ GH入所の基準、福祉サービスの利用基準を知りたい ⑧ GHの空きをすぐに分かるシステムがあればいい 	<p><具体的な取組み> 「すぐにできる」、「これならできる」を大切に♪</p> <p style="text-align: center;">病棟スタッフに積極的に参加してもらう！！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">②、④</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">⑥部会とあわせ実施</div> </div>

3-1 中部圏域の取組①

<p>中部圏域のアセスメント(今の姿)</p>	<p>支援者の退院させたい気持ち強い！関係性ができているので入院を長引かせない 相談支援事業所が少なく、交通手段の確保等生活が不便</p>
<p>中部圏域の目指すビジョン</p>	<p>最終的には長期入院者を「ゼロ」にする</p>
<p>今日から半年間の目標</p>	<p>まず一人ひとりから、一人をみんなで考える</p>
<p><取組み></p>	
<p><アイデア> (ストレンクスを活かして！)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなネットワークづくり⇒地域移行の話が出来る ・今のメンバーが集まれる場 ・退院の想像のためにピアの力を活用する ・資源の創出⇒受け入れ体制を作る ・何が必要なか整理する ・事例検討の場 ・互いの交流(病院と相談)退院計画なくても相談につなぐ 	<p><具体的な取組み> 「すぐにできる」、「これならできる」を大切に♪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡会 <ul style="list-style-type: none"> 入院している一人ひとりに会いに行く 事例検討 フォーマットづくり ・みんなで退院計画 <ul style="list-style-type: none"> 3人ぐらいで空き家への入居⇒GHへ移行 入る人に合わせたおうちづくり(シェアハウス) 官:ヘルパーの支給の融通 民:空き家への活用 病院:対象者のピックアップ、相性をアセスメント

3-1 富山圏域の取組①

富山圏域のアセスメント(今の姿)	病院や相談事業所といった社会資源が多くある。顔の見える関係作りはこれから
富山圏域の目指すビジョン	精神障害者の方が自分らしく地域で過ごしていくことができる、互いに顔の見える関係になって地域の人にも理解してもらい、みんなが一つになっている
今日から半年間の目標	多職種で地域移行に関して集まれる場を作る
<取組み>	
<p><アイデア> (ストレングスを活かして！)</p> <p>⇒市障害福祉課を巻き込む</p>	<p><具体的な取組み> 「すぐにできる」、「これならできる」を大切に♪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修企画チームを作る(Nsを含めた多職種チーム) ・自立支援協議会の中にプロジェクトチームを作る(担当:山本さん) ・地域連携パスを合同で作る(基幹相談室)

3-1 高岡圏域の取組①

高岡圏域のアセスメント(今の姿)	宝の山
高岡圏域の目指すビジョン	当事者が主役の地域生活ができるように、チーム高岡を作る
今日から半年間の目標	チーム高岡準備委員会の設置

＜取組み＞	
<p>＜アイデア＞（ストレンクスを活かして！）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者さんの社会資源見学(B型事業所、GHなど) ・第3者も参加できる退院支援委員会の開催←相談支援事業所の参加 ・家族に面会に来てもらう ・顔の見える場を作る(多職種の参画) ・必要な資源、ニーズを教えてもらう ・患者さんに制度の説明、情報提供(EX.チラシがほしい) ・職員の底上げ、理解⇒他HP、厚生センターなどへの報告会 	<p>＜具体的な取組み＞ 「すぐにできる」、「これならできる」を大切に♪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学ツアーを行う(病院⇄地域) ・各施設の紹介DVDづくり(三角点のDVDを各病院で活用、地域研でも) ・メーリングリストの作成

3-1 砺波圏域の取組①

砺波圏域のアセスメント(今の姿)	コンパクトで、顔が見えやすく、関係性のいい地域。病院と地域との協働の良さを知っていて、声かけがあると病院にいきやすい。今後カンファレンスなどで多職種アセスメントをし、もっと相談支援につながるという圏域
砺波圏域の目指すビジョン	年齢や障害に関わらず、オール砺波で支えあえる透明な圏域
今日から半年間の目標	
<取組み>	
<p><アイデア> (ストレングスを活かして！)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院に地域の風を入れる(ピア、メンタルヘルスサポーター) ・関係者情報交換会(各事業を知らないの、地域資源) ・支援のためのエコマップと、支援者連絡先を書き込んであるシート(ツール)を作る ・当事者側が体験発表を企画 ・介護領域で行っている事例検討に障害福祉サービス事業所、病院が参加する 	<p><具体的な取組み> 「すぐにできる」、「これならできる」を大切に♪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会の情報も共有 ・会場を回る(ワーカー外のスタッフで事例検討会) ・厚生センター以外の場で連絡会を開く(今日の話と報告) ・介護領域で行っている事例検討に参加してみる ・家族への支援(家族会？家族教室？それ以外？)

4 都道府県としての来年度への抱負

地域移行推進のための人材育成について

- ・引き続き、入院の長期化を防ぎ、また、長期入院者であっても本人中心の支援にあたり前のこととして取り組める人材の育成を目指す。

市町村支援について

- ・市町村職員の積極的な研修参加を呼びかけたり、自立支援協議会精神部会等において市町村の立場からの課題を把握し、対策を検討する。

地域移行の推進について

- ・各圏域ごとに地域移行をテーマにして議論する場を作り、各圏域ごとの行動計画の進捗状況を確認し、地域移行推進のための取組が継続できる体制について検討する。

5 次年度の戦略

長期目標

県全体で地域移行が推進する仕組みができてきている（平成32年頃まで）

短期（次年度）目標

各圏域ごとの地域移行推進に向けた行動計画の進捗状況を確認し、地域移行推進のための取組が継続できる体制について検討する。

目標達成のためのスケジュール（いつ、だれが、何を、どのように実施するか）

時期		